

IV-4

新しい経済の形(3)―分かち合う経済「共有経済」

「新しい社会」をめざすためには「新しい経済の形」について考える必要があることから、これまで「対等な人どうしによる生産(ピア生産)」と「社会的企業」について考えてきました。今回は「共有経済」について読み進めていきたいと思えます。後に触れるように「シェアリングエコノミー」という「カッコいい」用語を使う研究者が多いようですが、そうであれば思い切って「分かち合う経済」とでもいった方がよほど「カッコいい」と思うのは私だけでしょうか。

前の資料まで「◇文献注(文中で言及されている参考文献など)」としていた箇所は、今回から「◇原注(文中で言及されている参考文献など)」とすることにします。原文の表記通りに掲載しておきます。ただし、この箇所は無視していただいてよいと思えます。

【1】「共有経済」とは「文化」である

Jakamistaloudella tarkoitetaan kulttuuria, jossa ihmiset käyttävät resurssinsa nykyistä tehokkaammin muun muassa myymällä eteenpäin tai kierrättämällä tarpeettomat tavarat sekä yhteiskäyttämällä tarvitsemiaan hyödykkeitä (lainaaminen, vuokraaminen, kimppakyydit).

■ 語句・文法

jakamis-taloudella「分かち合う経済(という語)により、共有経済(という表現)により」[接]< talous (jakamis- < jakaminen 動名 < jakaa) / tarkoitetaan「意図される、意味される」受現 < tarkoittaa / resurssinsa「自らの資源を」[複主対]+ 複 3 所接 < resurssi / nykyistä tehokkaammin「現在よりも効率的に」(nykyistä [分] < nykyinen、tehokkaammin [副] 比 < tehokas < teho) / myymällä「売ることにより」MA 不[接] < myydä / eteen-päin「前方へ、さらに」 / kierrättämällä「リサイクルすることにより、再利用することにより」MA 不[接] < kierrättää < kiertää / tarpeettomat「不必要な」[複主対] < tarpeeton < tarve / yhteis-käyttämällä「共同利用することにより」MA 不[接] < -käyttää (yhteis- < yhteinen) / tarvitsemiaan「自分たちが必要とするような」[複分]+ 複 3 所接 < tarvitsema 動分 < tarvita / hyödykkeitä「有用品を、商品を」[複分] < hyödyke < hyöty / lainaaminen「貸し借りすること」動名 < lainata / vuokraaminen「賃借・賃貸すること」動名 < vuokrata / kimppa-kyydit「相乗りすること」[複主] < -kyyti (kimppa「集団、グループ、仲間」、kyyti「(自動車などに)乗せること、乗せてもらうこと」)

● フィンランド語理解のための訳例

jakamis-talous「共有経済」という言葉により意味される|文化を、|その中では人々は使う|自らの資源を|現在よりも効率的に|なかでも|[売ることにより|さらに]|あるいは[リサイクルすることにより|不必要な品物を]|さらに[共同利用することにより|自分たちが必要とするような商品を(貸し借りすること、賃借・賃貸すること、相乗りすること)]。

◎意訳

jakamistalous「共有経済」という言葉により意図されるのは、人々が自らの資源を現在よりも効率的に利用するような文化のことであり、それはなかでも自分のモノを売ったり、不要なものをリサイクルしたり、あるいは必要なものを貸し借りしたり、レンタルしたり、自動車に相乗りするなど、共同利用することにより実現される。

★補足

【1】の中で共有経済のことを kulttuuri「文化」としている点には注意をすべきだと思います。「文化」については、資料Ⅲ-4の中でかなり詳しく扱いましたので、関心があれば確認してください。我々が共有する行動様式、生活様式、そして基盤となる価値観などを含むものが「文化」ですが、とくに経済活動を支える「文化」において変化が求められていることを「共有経済」というものが表しているのかもしれませんが（それは「対等な人どうしによる生産」や「社会的企業」についてもいえることですが）。

【2】共有経済とは対等な消費者どうしの間で行われる活動

Vaikka jakamistalous voi periaatteessa kattaa kaikentyyppiset vuokraus-, kierrätys- ja lainaamistoiminnot, pääpaino uudessa jakamistaloudessa on ensisijaisesti kuluttajalta kuluttajalle tapahtuvassa vertaisten välisessä toiminnassa.

■語句・文法

periaatteessa「原則として」[内]< periaate / kattaa「覆う、含む、カバーする」 / kaiken-tyyppiset「あらゆるタイプの」[複主対]< -tyyppinen < tyyppi / vuokraus「賃貸・賃借」< vuokrata / kierrätys「リサイクル、再利用」< kierrättää / lainaamis-「貸し借り」< lainaaminen 動名 < lainata / toiminnot「活動、機能、働き」[複主対]< toiminto < toimia / pää-paino「重点」 / kuluttajalta kuluttajalle「消費者から消費者へ」 / tapahtuvassa「起こるような、行われるような」[内]< tapahtuva 能現分 < tapahtua / vertaisten「対等な人たちの」[複属]< vertainen / välisessä「間の」[内]< välinen < väli / toiminnassa「活動の中に」[内]< toiminta < toimia

●フィンランド語理解のための訳例

〈次のよう〉[だけれども|共有経済はできる|原則として|含む|あらゆるタイプの賃貸・賃借<活動>|リサイクル<活動>|そして貸し借りの活動を]、|重点は|新しい共有経済において|ある|第一に|[消費者から消費者へ|起こるような|対等な人たちの|間の|活動の中に]。

◎意訳

共有経済とは原則としてあらゆるタイプの賃貸・賃借、リサイクル、そして貸し借りなどの活動を含みえるが、新しく現れてきている共有経済においては、何よりも消費者から消費者へという形で行われるような対等な人間どうし(ピアツーピア)の活動に重点が置かれている。

★補足

【2】の中には vertainen「対等な人、ピア」という語が登場してきました。この語は資料IV-2で扱った「対等な人どうしによる生産（ピア生産）」で登場した語です。そして、「共有経済」に関する解説の中で vertainen「対等な人」という語が登場するということは、「対等な人どうしによる生産」と「共有経済」を支える考え方の間に共通するものがあるということだと思います。また、この資料の【26】では、資料IV-3で扱った「社会的企業」と「共有経済」の共通点も登場します。したがって、このテーマIVで扱うさまざまな「新しい経済の形」はそれぞれ独立した別個のものだというよりも、いずれもが「持続可能な世界」をめざすという共通の目的をもつのであり、必然的に共有する部分を多くもつものなのだろうと思います。

【3】共有経済は多くの場合、何らかの仲介組織により調整される

Käytännössä kuitenkin uudessa jakamistaloudessa jakamista koordinoi netin kautta jonkinlainen välittävä organisaatio. Esimerkiksi Airbnb koordinoi tilojen (huoneet, asunnot, talot) jakamista yksittäisten ihmisten välillä.

■語句・文法

käytännössä「実際には、現実には」[内] < käytäntö < käyttää / koordinoi「調整する」 / välittävä「仲介するような」能現分 < välittää < väli / Airbnb「エアビーアンドビー」（「エアビーアンドビー」はオンライン上で民泊サービスを仲介するサービスのようで、世界 190 か国以上で利用されているそうです） / tilojen「空間の、スペースの」[複属] < tila / yksittäisten「個別の」[複属] < yksittäinen < yksittäin < yksi

●フィンランド語理解のための訳例

実際には|しかしながら|新しい共有経済において|分かち合うことを|調整する|インターネットを通して|ある種の|仲介するような|組織が。たとえば|エアビーアンドビーは|調整する|空間の(部屋、住居、建物)|分かち合うことを|個別の人間の|間で。

◎意訳

しかし実際には、新しい共有経済において共有は何らかの仲介組織によってインターネットを通じて調整される。たとえば、エアビーアンドビーは空間(部屋、住居、建物)の個人間における共有を調整している。

【4】なぜフィンランド語では”jakamistalous”というのか

Miksi sana jakamistalous? Siksi, että tälle ilmiölle tarvitaan jokin nimi, jotta siitä voidaan helpommin puhua ja näin edistää sen toteutumista. Maailmalla puhutaan tällä hetkellä paljon käsitteistä "sharing economy" ja "collaborative consumption", jotka molemmat viittaavat samaan asiaan. Suomessa on käytetty myös termiä "yhteisöllinen kuluttaminen", mutta jakamistalous on todettu käsitteenä kätevämmäksi ja helpommin avautuvaksi.

■ 語句・文法

siksi, että ~「~であるから、~であるため」/ilmiölle「現象へ」[向]<ilmiö<ilma⇒ilmi/jotta ~「~であるように」/siitä「それについて」[出]<se/helpommin「より簡単に」[副]比<helppo/näin「このように、こうして」[複具]<tämä/toteutumista「実現することを」[分]<toteutuminen 動名<toteutua<tosi/käsitteistä「概念について」[複出]<käsite<käsitteä/jotka「それらは」[複主]<joka/viittaavat「さす、示す、言及する」単₃現<viitata(+[入])/on käytetty「使われてきている」受完<käyttää/termiä「用語を」[分]<termi/yhteisöllinen kuluttaminen「共同体的な消費、共同(型)消費」(yhteisöllinen「共同体的な、共同の」、kuluttaminen「消費すること」動名<kuluttaa<kulua。このフィンランド語は英語の collaborative consumption に相当するものですが、日本語では「共同(型)消費」と訳されることが多いようです。次の「★補足」も参照してください。) /on todettu「明らかにされている」受完<todeta/käsitteenä「概念として」[様]<käsite/kätevämmäksi「より実用的だと、より使いやすいものだと」[変]<kätevämpi 比<kätevä<käsi/avautuvaksi「より理解しやすいものだと、より明らかになりやすいものだと」[変]<avautuva 能現分<avautua<avata(avautuaの基本的な意味は「(ドアなどが)開く」という意味ですが「理解されやすい」という意味でも使われます)

● フィンランド語理解のための訳例

なぜ jakamis-talous「分かち合う経済」という言葉? | <次のよう> [だから | この現象へ | 必要とされる | 何かの名前、 | <次の> ために | それについて | できる | より簡単に | 話す | そして | そうして促進する | その | 実現することを]。世界では話される | この時点において | たくさん | <次のような> 概念について | ”sharing economy” | そして ”collaborative consumption”、 | それらは両方とも | 言及する | 同じことに。フィンランドでは使われてきている | また用語を | ”yhteisöllinen kuluttaminen” 「共同消費」、 | しかし jakamis-talous「分かち合う経済」 <という用語> | 明らかにされている | 概念として | より実用的だと | そして、より簡単に理解できるものだと。

◎ 意訳

なぜ jakamistalous「分かち合う経済、共有経済」という語くを使うのか。それは、このような現象についてより容易に話すためには、そしてそうすることによりその実現を促進できるようにするためには、何らかの名称が必要であるからである。現時点において世界では ”sharing economy” や ”collaborative consumption” といった概念についてしばしば語られているが、これら両者は同じことに言及している。そして、同じくフィンランドにおいては ”yhteisöllinen kuluttaminen” 「共同消費」という語も使われてきてはいるが、jakamis-talous「分かち合う経済、共有経済」という語の方が概念として便利で理解しやすいことが明らかになっている。

★ 補足

個人的には【4】の内容にはとても感動します。このIV-4の資料では「共有経済」という表現を使用していますが、多くの日本語の資料を見ると「シェアリングエコノミー」という用語が使われていま

す。たしかに「シェアする」というのはもはや日本語の語彙の一部だとは思いますが、個人的には「共有経済」と表現できるものを「シェアリングエコノミー」というのは研究者や偉い先生方のただの怠慢か、あるいは一般の人間を排除することで自らの立場を守ろうとする姿勢の現れではないかとさえ思います。もちろんフィンランドでも、とくに英語をフィンランド語式に発音・表記してそのまま使用することは増えています（その例が diversiteetti でしょうか）。しかし、【4】で書かれているように jakamistalous「分かち合う経済」というフィンランド語が helpommin avautuva「より容易に理解できるような」ものであることを明確にする姿勢は重要だと思います（ここで「誰にとって avautuva なのか」は書かれていませんが、お分かりになりますね）。

一部の研究者や政治家たちが理解すればよいのではなく、ふつうの市民たちが理解できるように努力してこそ研究や学問には意味があると思います（もちろん研究者としての特殊な訓練を積み重ねなければ理解できないような事柄の方が多いかもかもしれませんが）。少なくとも研究者や政治家は広く一般の人々が理解できるような表現をめざさなければ、民主主義などというものは成り立たないのではないかと思います。いかがでしょうか。そうであれば、「共有経済」や「分かち合う経済」といえば済むところで、わざわざ「シェアリングエコノミー」などと平気でいえる人々は……。ここまでにしておいた方がよいですね。

また yhteisöllinen kuluttaminen について補足です。これは英語の collaborative consumption の訳語だと思います。【14】以降で紹介するレイチェル・ボッツマンとルー・ロジャースの著作の翻訳では「協働型消費」という日本語が使われています。たしかに英語の collaborative の訳語としては「協働型」は適切な気もします。私は「共同」「協同」「協働」の違いを厳密には理解できませんが、とりあえず本資料では「共同」としておきます。ただ、今後再検討が必要となれば、変更もやぶさかではありません。

こう考えるとカタカナ言葉も問題ですが、日本語の一部となっている漢語（和製漢語も含めて）も理解しづらいことが多いかもしれません。その点やはり理解しやすいのは和語でしょうか。たとえば collaborative consumption も「一人ではなく皆でモノを使うこと」といい、collaborative lifestyles なら「皆で力を合わせるような暮らし方」とでもいえば、意味するところは十分に伝わると思います。カタカナ言葉や漢語をすべて排除することはできませんし、またそうする必要もありません。それでも、できるだけ多くの人々が理解できるよう努めることは必要なことだと思います。

【5】なぜ共有経済という文化を促進すべきなのか

Miksi tällaista kulttuuria kannattaa edistää? Koska siitä on hyötyä kaikille: se säästää ihmisten rahaa ja aikaa sekä ympäristöä, ja samalla tarjoaa mahdollisuuden tutustua uusiin ihmisiin ja vahvistaa olemassaolevia sosiaalisia siteitä.

■ 語句・文法

kannattaa「～すべきである、～する価値がある」(+ A 不) / siitä「それから」[出] < se / säästää「節約する」 / tarjota「提供する」 / mahdollisuuden「可能性を」[属対] < mahdollisuus / tutustua「知り合う、親しむ」 < tuttu / olemassa-olevia「存在するような」[複分] < -oleva (oleva 能現分 < olla, olla olemassa「存在する」) / siteitä「絆を」[複分] < side < sitoa

●フィンランド語理解のための訳例

なぜ、このような文化を|する価値があるのか|促進する。なぜなら|それからは|ある|利益が|すべての人に:|それは節約する|人々のお金と時間を|そして環境を、|そして同時に|提供する|可能性を|親しむための|新しい人々へ|そして強める|存在するような|社会的な|絆を。

◎意訳

なぜこのような文化を推進する価値があるのだろうか。なぜなら、それはすべての人にとって利益になるからである:それは人間のお金や時間、さらには環境も節約することになり、同時に新しい人々と出会い、あるいは既存の社会的な絆を深めるような機会を与えてくれるのである。

★補足

ここまで共有経済について見てきましたが、それが発展してきた背景には複数の原因や理由があります。そのことについての文章を見ていきますが、少し長いので【6】から【10】に分けて読んでいきましょう。

【6】共有経済の発展に影響を及ぼしたもの(1)

Jakamistalous on kehittynyt seuraavien asioiden yhteisvaikutuksesta:³

- Kulutuskäyttäytymisessä on hiljalleen tapahtumassa kulttuurinen muutos pysyvän omistajuuden arvostamisesta kohti käyttöoikeuden arvostamista.

「◇原注(文中で言及されている参考文献など)」

3. Lahti & Selosmaa 2013; Bauwens, Michel & Iacomella, Franco & Mendoza, Nicolás & Burke, pdf.

ここでは参考文献が二つ挙げられていますが、一つ目しか詳細がわかりません。

Lahti, Vesa-Matti & Selosmaa, Janni (2013): Kaikki jakoon! Kohti uutta yhteisöllistä taloutta. Atena; Botsman 2013.

■語句・文法

seuraavien asioiden「次のような事柄の」[複属]< seuraava asia/yhteis-vaikutuksesta「共通の影響から、組み合わさった影響から」[出]< -vaikutus < vaikuttaa/kulutus-käyttäytymisessä「消費行動において」[内]< -käyttäytyminen 動名 < käyttäytyä/hiljalleen「少しずつ、静かに、ゆっくりと」/pysyvän omistajuuden arvostamisesta「安定的な所有権を高く評価することから」(pysyvä「続くような、安定的な」能現分 < pysyä, omistajuuden[属]< omistajuus「所有者であること、所有権」< omistaja < omistaa < oma, arvostamisesta[出]< arvostaminen 動名 < arvostaa「高く評価する、価値を見いだす」< arvo) /kohti käyttö-oikeuden arvostamista「使用権を高く評価することへ向けて」(kohti「～へ向けて」+[分]、käyttö-oikeuden[属]< -oikeus、arvostamista[分]< arvostaminen 動名 < arvostaa)

●フィンランド語理解のための訳例

共有経済は発展してきた|次の事柄の|共通の影響から:

- 消費行動の中で|少しずつ起ころうとしている|文化的変化が|[安定した所有権の|高く評価することから]|<次のこと>[へ向けて|使用権の|高く評価すること]。

◎意訳

共有経済は次のような事柄が組み合わさった結果として発展してきた:

- 消費行動において、安定的な所有権を評価することから使用権を評価することへ向けての文化的変化が徐々に起こりつつある。

【7】共有経済の発展に影響を及ぼしたもの(2)

- Teknologinen kehitys – verkkoinfrastruktuurin paraneminen, laajakaistan yleistymisen sekä nettisovellusten ja niihin liittyvien palvelujärjestelmien kehittyminen – on 2000-luvun alun jälkeen mahdollistanut uudenlaiset sosiaaliset verkostot ja kuluttajien välisten markkinapaikkojen syntymisen.

■語句・文法

verkko-infrastruktuuri「ネットワーク・インフラストラクチャー、IT インフラストラクチャー」/
paraneminen「向上すること、改善すること」動名 < parata/laaja-kaista「ブロードバンド、高速通信回線」/
yleistyminen「一般的になること」動名 < yleistyä < yleinen/netti-sovellusten「インターネット・アプリケーションの、オンライン・アプリケーションの、Web アプリケーションの」[複属]< -sovellus < soveltaa/
niihin liittyvien palvelu-järjestelmien「それらに結びつくようなサービス・システムの」(niihin[入]< ne/liittyvien[複属]< liittyvä 能現分 < liittyä/palvelu-järjestelmien「サービス・システムの」[複属]< -järjestelmä) / mahdollistaa「可能にする」< mahdollinen / markkinapaikkojen「市場の、マーケット・プレースの、取引する場所の」[複属]< -paikka

●フィンランド語理解のための訳例

- 科学技術の発展—ネットワーク・インフラストラクチャーの|向上すること、|高速通信回線の|一般化すること|そしてオンライン・アプリケーションの|そして、それらに結びつくような|サービス・システムの|発展すること—2000 年代初めの後で|可能にしてきた|新しい種類の|社会的ネットワークを|そして消費者たちの|間の|市場の|誕生することを。

◎意訳

- ネットワーク・インフラストラクチャーの向上、高速通信回線の一般化、そしてオンライン・アプリケーションと、それらに結びつくようなサービス・システムの発展など、さまざまな科学技術の発展が 2000 年代初め以降に新たな社会的ネットワークの形成や消費者の間にお

ける市場の誕生を可能にしてきた。

【8】共有経済の発展に影響を及ぼしたもの(3)

- Ekologisen kestävyuden merkitys kuluttajien keskuudessa on kasvanut. Huoli ympäristöstä on lisääntynyt, ja kuluttajat ovat valmiita tehostamaan resurssien käyttöä ja kierrätystä.

■ 語句・文法

keskuudessa「～の間で」/tehostamaan「効率的にする、効率化する」MA 不[入]<tehostaa < teho

● フィンランド語理解のための訳例

- 生態的持続可能性の意味|消費者たちの間で|成長した。[関心|環境について]|増えてきた、|そして消費者たちは準備ができています|効率的にするための|資源の利用を|そしてリサイクルを。

◎ 意訳

- 消費者の間において生態的持続可能性を重視する姿勢が高まってきた。環境に関する関心が高まり、消費者たちは資源の利用やリサイクルをより効率的なものにすることに向き合うようになった。

【9】共有経済の発展に影響を及ぼしたもの(4)

- Talouskriisit ovat luoneet painetta hyperkulutuksesta luopumiseen sekä tavaroiden ja materiaalien uudelleenkäyttöön. Säästäväisyys ja uusien ansaintamahdollisuuksien keksiminen ovat nousseet entistä suurempaan arvoon.

■ 語句・文法

talous-kriisi「経済危機」/painetta「圧力を」[分]<paine < painaa/hyper-kulutuksesta「過剰消費から」[出]<-kulutus/luopumiseen「脱することへ、捨て去ることへ、あきらめることへ」[入]<luopuminen 動名 < luopua (+ [出]) / uudelleen-käyttöön「再利用へ」[入]<-käyttö/säästäväisyys「儉約、節約」< säästäväinen < säästävää 能現分 < säästää / ansaintamahdollisuuksien「所得の可能性の、収入源の」[複属]<-mahdollisuus (ansainta < ansaita) / keksiminen「考えつくこと、見つけること」動名 < keksiä / entistä suurempaan arvoon「以前よりも高い価値へ」(entistä [分]< entinen, suurempaan [入]< suurempi 比 < suuri)

● フィンランド語理解のための訳例

- 経済危機は作り出した|圧力を|過剰消費から|抜け出すことへ|そして品物や材料の|再

利用へ。儉約と|新しい収入源の|考えつくこと|上った|以前よりも大きな価値の中へ。

◎意訳

- 経済危機が、過剰消費から抜け出し、品物や材料を再利用することへの圧力を生み出してきた。儉約さと新たな収入源を見つけることが、以前よりも価値を見出されるものとなってきた。

【10】共有経済の発展に影響を及ぼしたもの(5)

- Uuden sukupolven yrittäjät ja rajoittajat ovat ymmärtäneet internetin mahdollistaman uudenlaisen jakamisen liiketoimintamahdollisuudet.

■語句・文法

mahdollistaman「可能にしたような」[属]< mahdollistama 動分 < mahdollistaa/ liike-toimintamahdollisuudet「事業活動の可能性を」[複主対]< -mahdollisuus

●フィンランド語理解のための訳例

- 新しい世代の企業家・起業家たちや投資家たちは|理解している|インターネットの|可能にしたような|新しい種類の共有経済の|事業活動の可能性を。

◎意訳

- 新しい世代の企業家・起業家や投資家たちはインターネットによって可能になった新たな共有経済のもつ事業活動の可能性を理解するようになっている。

【11】インターネットは共有経済にとって大きな力になる

Jakamistalouteen ei tarvita välttämättä verkkoa, mutta siitä on paljon hyötyä. Ilman verkkoa ihmisten on vaikeampi tietää, millaisia resursseja heidän ulottuvillaan on, sillä niitä ei ole listattu mihinkään, eikä hakeminen onnistu. Lisäksi verkon myötä kunkin ihmisen saatavilla oleva resurssivalikoima laajenee, koska erilaisten mainejärjestelmien ansiosta on mahdollista synnyttää myös tuntemattomien välille resurssien vaihdon mahdollistava luottamus.

■語句・文法

välttämättä「必ずしも」MA 不[欠]< välttää/ ihmisten on vaikeampi tietää「人間にとって知るのはより難しい」(ihmisten[複属]< ihminen ですが、属格は「~にとって」という意味を表すことがあります。vaikeampi 比 < vaikea) / ulottuvillaan「手の届くところに、手に入れられるところに」[複接] + 複3所接 < ulottuva 能現分 < ulottua/ sillä「というのも、なぜなら」/ niitä ei ole listattu「それらはリストにされていない」(niitä[分]< ne, ei ole listattu 受完否 < listata) / mihinkään「どこへも」[入]< mikään/ hakeminen「探すこと、検索すること」動名 < hakea/ verkon myötä「ネットとともに」/ kunkin ihmisen saatavilla oleva resurssi-valikoima「それぞれの人間の手に入れられるような

資源の選択の幅」(kunkin ihmisen [属] < kukin ihminen, saatavilla 「手に入れられる状況に、手に入れられるような」 [複接] < saatava 受現分 < saada, oleva 能現分 < olla, valikoima 「選択の幅、選択肢」 < valikoida < valita) / laajenee 「広がる」 単 3 現 < laajeta < laaja / maine-järjestelmien 「評判システムの」 [複属] < -järjestelmä (英語では reputation system というようですが、一方で「評判システム」という日本語がどの程度定着しているのかわかりません。たとえば通信販売のサイトなどにおける「口コミ」などの評価を通して利用者どうしがたがいに情報を共有するようなシステムだと考えておけばよいと思います。) / ansiosta 「~のおかげで」 [出] < ansio / tuntemattomien välille 「知らない者たちの間へ」 (tuntemattomien [複属] < tuntematon 否分 < tuntea) / resurssien vaihdon mahdollistama luottamus 「資源の交換が可能にするような信頼を」 (mahdollistama 動分 < mahdollistaa、なおこの語句は on mahdollista synnyttää 「生み出すことが可能である」の中の synnyttää という動詞の目的語になっています。このでの synnyttää のような A 不定詞の目的語となる対格目的語=全体目的語は、単数の場合には luottamus のように属格・対格ではなく主格の形になります。) /

●フィンランド語理解のための訳例

共有経済へ | 必要ではない | 必ずしも | インターネットは、 | しかし | それからはある | たくさん | 利益が。インターネットなしで | 人々にとってはより難しい | 知ることは、 | [どのような資源 | 彼らの手の届くところにあるのか]、 | なぜなら | それらはリストにされていない | どこへも、 | また検索することも成功しない。加えて | インターネットとともに | それぞれの人間の手に入れられるような | 資源の選択の幅 | 広がる、 | なぜなら | さまざまな評判システムのおかげで | 可能である | 生み出すことが | また知らない人たちの間へ | 資源の交換の | 可能にするような | 信頼。

◎意識

共有経済では必ずしもインターネットが必要なわけではないが、しかしインターネットは多くの利益をもたらしてくれるものだ。インターネットがなければ、どのような資源が手の届くところにあるのか知ることはより難しいだろう。なぜなら、それらはどこにもリスト化されていないわけではないし、そのため見つけ出すこともうまくはいかないだろうから。さらにインターネットの活用とともに人々が手に入れることのできる資源の選択の幅は拡大している。なぜなら、口コミなどを活用するさまざまな評判システムのおかげで、たがいに見知らぬ人々どうしの間へも資源交換が可能にするような信頼関係を生み出すことが可能であるからである。

【12】インターネットは社会的変革をもたらしている

Internet ja erityisesti sosiaalinen media ovat yhdistäneet ihmisiä aivan uudella tavalla. Erilaisissa uusissa ryhmissä myös jakaminen on aiempaa helpompaa. Tämä on internetin mukanaan tuoma yhteiskunnallinen murros. Ihmiset ovat alkaneet käyttää nettiä jakaakseen asioita, tietoja, taitoja ja kokemuksia entistä laajemmin ja järjestelmällisemmin. Nyt meillä on uusi media, jonka avulla voimme yhdistää voimamme melkein ilmaiseksi.⁴

◇原注(文中で言及されている参考文献など)

4. Shirky, Clay (2010): Cognitive Surplus – How Technology Makes Consumers into Collaborators. Penguin Books; Léonard, Antonin (2012): From consumption to production, here comes the collaborative economy. Ouishare, 7 July 2012, katsottu 28.12.2012, <http://ouishare.net/2012/07/from-consumption-to-production-the-collaborative-economy/>

■語句・文法

yhdistää「結びつける」< yksi/aiempaa helpompaa「以前よりも簡単な」(aiempaa [分]< aiempi, helpompaa [分]< helpompi 比 < helppo) / mukanaan「自らとともに」(mukana + 単 3 所接) / tuoma「もってくるような」動分 < tuoda / murros「変革」< murtaa / jakaakseen「分かち合うために、共有するために」[変]+ 複 3 所接 < jakaa / entistä laajemmin ja järjestelmällisemmin「以前よりも広く、そして体系的に」(entistä [分]< entinen、laajemmin [副] 比 < laaja、järjestelmällisemmin [副] 比 < järjestelmällinen < järjestelmä) / jonka avulla「その助けにより」(avulla [接]< apu) / voimamme「我々の力を」[複主対]+ 複 1 所接 < voima / ilmaiseksi「無料で」[変]< ilmainen

●フィンランド語理解のための訳例

インターネットと|とくにソーシャルメディアは|結びつけてきた|人々を|まったく新しい方法で。さまざまな新しいグループにおいて|また分かち合うことは|以前よりも容易だ。これはインターネットが自らとともに|もたらした|社会的変革である。人々は始めている|使うことを|インターネットを|分かち合うために|物事を、|知識・情報を、|技能を|そして経験を|以前よりも|より広く|そしてより体系的に。今|我々にはある|新しい媒体(メディア)が、|その助けにより|我々はできる|結びつけることが|我々の力を|ほとんど無料で。

◎意識

インターネットと、とくにソーシャルメディアはまったく新しい方法で人々を結びつけるようになった。そして、さまざまな新しいグループにおいて、また共有するということが以前よりも容易なものになった。これはインターネットというものがもたらした社会的変革だといえるだろう。人々は物、知識・情報、技能、そして経験を以前よりも広範に、そして体系的に共有するためにインターネットを活用し始めている。今や我々は、ほぼ無料で一つに力を合わせることができるような、そんな新たなメディアを手に入れたのである。

★補足

インターネットのもたらす劇的な影響については、資料IV-2でも挙げたリフキンの文献が詳しく論じています。ぜひ読んでみてください。原著を読んでいない私に判断できるのかという批判があるかもしれませんが、それでも翻訳がすばらしいと思います。

📖 推薦図書

ジェレミー・リフキン(柴田裕之 訳). 2015. 『限界費用ゼロ社会—〈モノのインターネット〉と共有型経済の台頭』NHK出版.

ジェレミー・リフキン(柴田裕之 訳). 2023. 『レジリエンスの時代—再野生化する地球で、人類が生き抜くための大転換』NHK出版.

【13】共有経済は流通市場の再編を引き起こす

Jakamistalous muokkaa tuotteiden jakelumarkkinat uuteen uskoon. Uusien verkkoteknologioiden avulla tavaroita ja muuta omaisuutta voidaan esimerkiksi jakaa ilmaiseksi tai vaihtaa muihin samanarvoisiin hyödykkeisiin. Usein nämä vaihdot tapahtuvat toisilleen tuntemattomien yksittäisten ihmisten kesken. Tällainen jakelumarkkinoiden uusjako edistää kierrätystä ja vähentää roskeen heitettävän tavaran määrää. Tämä puolestaan vähentää uuteen tuotantoon kuluvien uusien resurssien tarvetta.²²

◇原注(文中で言及されている参考文献など)

22. Botsman & Rogers 2010.

Botsman, Rachel & Rogers, Roo (2010): What's Mine is Yours: the Rise of Collaborative Consumption. HarperCollins

これは【14】の「★補足」で紹介する訳書の原著です。

■ 語句・文法

muokata「作り変える、改良する」/ jakelu-markkinat「流通市場を」[複主対] < -markkina / uuteen uskoon「新たな形へ」[入] < uusi usko (usko という語は、とくに uusi と結びつくと「(新しい) 形」といった意味で使われます) / uusien verkko-tekologioiden avulla「新しいネットワーク技術のおかげで」(uusien verkko-tekologioiden [複属] < uusi verkko-tekologia) / omaisuutta「資産を」[分] < omaisuus / muihin saman-arvoisiin hyödykkeisiin「他の同じ価値の有用品へ」[複入] < muu saman-arvoinen hyödyke / toisilleen「おたがいへ」[複向]+ 複₃所接 < toinen / toisilleen tuntemattomien yksittäisten ihmisten kesken「おたがいに知らない個々の人間の間で」(yksittäisten [複属] < yksittäinen < yksittäin < yksi) / uus-jako「再分配、再編」/ roskeen heitettävän「ゴミへ投げ捨てられるような」(roskeen [複入] < roska, heitettävän [属] < heitettävä 受現分 < heittää) / uuteen tuotantoon kuluvien「新しい生産へ費やされるような」(uuteen

tuotantoon [入] < uusi tuotanto、kuluviin [複属] < kuluva 能現分 < kulua)

●フィンランド語理解のための訳例

共有経済は作り変える|製品の流通市場を|新たな形へ。新しいネットワーク技術のおかげで|品物やそのほかの資産を|できる|たとえば|分かち合う|無料で|あるいは|替える|他の同じ価値のある有用品へ。しばしば|これらの交換は起こる|おたがいへ|知らないような|個々の|人間たちの|間で。このような流通市場の再編は|促進する|リサイクルを|そして減らす|ごみとして捨てられるような|品物の量を。これは|一方で|減らす|新しい生産に費やされるような|新しい資源の|必要性を。

◎意訳

共有経済は商品の流通市場というものを新たなものへと作り変える。新しいネットワーク技術のおかげで、品物や他の資産を、たとえば無料で共有したり、あるいは同じような価値のある他の有用品に交換することができる。これらの交換はたがいに知らない個人どうしの間で行われるのが多くの場合である。このような流通市場の再編はリサイクルを促進し、廃棄させるものの量を減らすことになる。このことはさらに、新たな生産に費やされる新たな資源の必要性を低めることになるだろう。

【14】共有経済を三つのシステムに分類する考え方がある

Rachel Botsman ja Roo Rogers ovat jaotelleet jakamistalouden (tai yhteiskulutuksen) kolmeen eri palvelujärjestelmään: hyödykkeiden yhteiskäyttö palveluina, hyödykkeiden kierrätys ja yhteisölliset elämäntavat⁵.

◇原注(文中で言及されている参考文献など)

5. Botsman & Rogers 2010; ks. Lahti & Selosmaa 2013.

Botsman & Rogers については【13】、Lahti & Selosmaa については【6】の、それぞれ「◇原注(文中で言及されている参考文献など)」を見てください。

■語句・文法

次の「★補足」で紹介する書籍によれば Rachel Botsman (レイチェル・ボッツマン) は「ソーシャルイノベーター」、そして Roo Rogers (ルー・ロジャース) は「ニューヨークをベースに活躍するアントレプレナー／ビジネスデザイナー」だそうですが、お気づきのように、このカタカナの羅列に私はお手上げです。/ jaotella 「分類する」 < jaottaa < jakaa / palvelu-järjestelmään 「サービス・システムへ」 [入] < -järjestelmä / yhteisölliset elämän-tavat 「共同(体)的生活様式、共同型ライフスタイル」 [複主] < yhteisöllinen elämän-tapa (この用語については、【18】の後の「★補足」を参照してください)

●フィンランド語理解のための訳例

レイチェル・ボッツマンとルー・ロジャースは分類している|共有経済を(あるいは共同消費を)|三つの|異なる|サービス・システムへ:|[有用品の共同利用|サービスとして]、|有用品のリサイクル|そして|共同(体)的生活様式。

◎意訳

レイチェル・ボッツマンとルー・ロジャースは共有経済(あるいは共同消費)を三つの異なるサービス・システムに分類している:その三つとはサービスとしての有用品の共同利用、有用品のリサイクル、そして共同型生活様式である。

★補足

【14】で参考に行っているレイチェル・ボッツマンとルー・ロジャースの著作は【13】の「◇原注(文中で言及されている参考文献など)」にある通りですが、日本語の翻訳が出ています。

📖参考文献

レイチェル・ボッツマン／ルー・ロジャース(小林弘人 監修・解説、関美和 訳). 2016. 『シェアー〈共有〉からビジネスを生み出す新戦略』NHK 出版.

【15】「製品の機能・共同利用システム」—製品が果たす機能(サービス)を共同で利用する

Hyödykkeiden yhteiskäyttö palveluna -järjestelmässä eli palvelutuotejärjestelmässä hyödykkeen (esimerkiksi auton tai polkupyörän) käyttöoikeutta jaetaan useiden ihmisten kesken. Myös jotkut suuret yritykset ovat siirtyneet myymään tuotteitaan myös palveluina – esimerkkinä vaikkapa Peugeot, joka autojen myymisen lisäksi myy Keski-Euroopassa nykyään myös erilaisia Peugeotin tuotteilla tapahtuvia liikkumispalveluja⁶.

◇原注(文中で言及されている参考文献など)

6. Lahti & Selosmaa 2013.

この文献については【6】の「◇原注(文中で言及されている参考文献など)」を参照。

■語句・文法

palvelu-tuote-järjestelmä「サービス製品システム」(この後の「★補足」を参照してください) / käyttö-oikeutta「使用権を」 / jotkut「ある～、いくつかの」[複主] < joku / tuotteitaan「自らの製品を」[複分]+ 複3所接 < tuote < tuottaa / vaikkapa「たとえば」 / myymisen「売ることの」[属] < myyminen 動名 < myydä / tuotteilla「製品により」[複接] < tuote / tapahtuvia「起こるような、行われるような」[複分] < tapahtuva 能現分 < tapahtua / liikkumis-palveluja「移動サービスを、輸送サービスを」[複分] < -palvelu (liikkumis- < liikkuminen 動名 < liikkua)

●フィンランド語理解のための訳例

「[有用品の共同利用|サービスとして]・システムにおいて|つまりサービス製品システムにおいて|有用品の(たとえば自動車の、あるいは自転車の)|使用権を|分けられる|複数の人々の間で。また|いくつかの|大きな|企業は|移っている|売ることへ|自らの製品を|またサービスとして|一例と

して|たとえばプジョー、|それは|自動車の|売ることの|加えて|売る|中央ヨーロッパにおいて|現在
では|また|さまざまな|プジョーの製品により|行われるような|移動サービスを。

◎意訳

〈共有経済のシステムの中で〉サービスとしての有用品の共同利用というシステムにおいては、つまり「製品の機能・共同利用システム」においては、有用品（たとえば自動車や自転車）の使用権が複数の人の間で共有される。大企業の中にも自社製品をサービスとしても販売することへ移行しているものもある一例としては、たとえばプジョーを挙げることができるが、同社は自動車販売に加え、現在では自社製品によるさまざまな輸送サービスを中央ヨーロッパにおいて展開している。

★補足

【15】には palvelu-tuote-järjestelmä というフィンランド語が登場し、そのまま日本語にすれば「サービス製品システム」となるでしょう。ただし、参考になっているボツマンとロジャースの文献で使われている英語は product service system となっているようです（略して「PSS」と表記されるようです）。ですので、フィンランド語としては tuote-palvelu-järjestelmä の方が適切なのではないかという気がします。一方、【14】の「★補足」で紹介した訳書では「プロダクト=サービス・システム（PSS）」と訳されています。ここでの「サービス」とは「製品の果たす機能」と考えればよいと思います。つまり、ある製品をそれぞれの間人が一台ずつ所有するのではなく、一台の製品を共同利用することで「製品の果たす機能」を共有するということだと思えます。そのため、私の資料では「製品の機能・共同利用システム」という日本語にしておこうと思います。このシステムが示すような「買うことからサービスへの転換」については、すでに資料IV-1の【34】【35】でも扱いました。

【15】で取り上げている資料には、それぞれのサービス・システムの代表となる企業が挙げてあります。「製品サービス・システム」については、たとえば自動車のレンタルサービスを行う RelayRides といった国際的企業が挙げられています。またフィンランドの企業としては、Taidelainaamot「芸術貸出所」という芸術作品のレンタルなどを行う企業の名前が挙げられています。

【16】「再配分市場」—必要とされないところから必要とされるころへ

Tavaroiden kierrätykseen perustuvissa järjestelmissä aiemmin omistettuja ja käytettyjä tuotteita jaetaan käytettäväksi sieltä, missä niitä ei tarvita, sinne, missä niitä tarvitaan. Uudessa jakamistaloudessa nämä järjestelmät toimivat netissä.

■語句・文法

kierrätykseen「リサイクルへ」[入]< kierrätys < kierrättää < kiertää / perustuvissa「もつづくような」[複内]< perustuva 能現分 < perustua / aiemmin「以前は、以前に」 / omistettuja「所有されていたような」[複分]< omistettu 受過分 < omistaa / käytettyjä「使用されたような」[複分]< käytetty 受過分 < käyttää / käytettäväksi「使用されるように、使用されるために」[変]< käytettävä 受現分 < käyttää / sieltä, missä ~「~であるところから」 / ei tarvita「必要とされない」受現否 < tarvita / sinne, missä ~「~であるところへ」

●フィンランド語理解のための訳例

品物のリサイクルへ|もとづくような|システムにおいては|以前は|所有されていたような|そして|使われたような|製品を|分けられる|使用されるように|〈次のような〉[ところから、|それらを|必要とされない]、|〈次のような〉[ところへ、|それらを|必要とされる]。新しい共有経済において|これらのシステムは|機能する|ネットにおいて。

◎意訳

品物のリサイクルにもとづくような〈共有経済の〉システムにおいては、以前であれば所有され使用された製品が、それらが不要とされる場所から必要とされる場所へと共有される。新しい共有経済においては、これらのシステムはインターネットを通じて機能する。

★補足

【16】では共有経済の二番目のシステムについて論じていますが、そこでは *kierrätys* というフィンランド語が使われています。この語を私はいつも「リサイクル」と訳しています。ただし、ボッツマンとロジャースが使っている英語は *recycle* ではなく *redistribution* です。そして、共有経済の二番目のシステムは *redistribution markets* という名称を与えられています。*redistribution* は「再配分、再分配」といった日本語に訳されることが多く、【14】の「★補足」で紹介した訳書でも *redistribution markets* は「再分配市場」と訳されています（「再配分市場」と訳されている箇所もありますが、どうやら「再分配市場」と統一すべき気がします）。*recycle* と *redistribution* の違いが明確には理解できませんが、次のような記述があります。

取引の対象が何であれ、再分配市場モデルは、中古品を廃棄せずにリユースと再販をすすめ、また新品を生産することで生まれる廃棄物やそこに投入される資源を大幅に減らすことができる。再分配は五つ目の「R」——リデュース、リサイクル、リユース、リペア、そしてリディストリビュート——であり、ひとつの持続可能な商取引のあり方として認められるようになってきた。（ボッツマン／ロジャース、2016：124）

この記述からすれば *redistribution* と *recycle* は明確に区別されているようですので、フィンランド語で *kierrätys* 「リサイクル」という語を使ってしまうことは、ひょっとすると少し問題があるのかもしれませんが。ただ、この資料では *kierrätys* をいつも通り「リサイクル」と訳させていただきます。

【16】のテキストの続きでは、リサイクルを行うフィンランドの企業として、たとえば *Kierrätäkännykkä.fi* 「携帯電話をリサイクルせよ.fi」の名前が挙げられていますが、名前の通り携帯電話のリサイクルを目的に事業を行っているようです。

【17】「共同型生活様式」—手で触れることのできないような資源を共有する

Yhteisölliset elämäntavat viittaavat vähemmän käsin kosketeltavien hyödykkeiden kuten ajan, tilan, taitojen ja rahallisten resurssien jakamiseen.

■ 語句・文法

vähemmän「より少なく」比 < vähän／käsin「手で」[複具]> < käsi／kosketeltavien「触れられるような」[複属]> < kosketeltava 受現分 < kosketella < koskettaa < koskea／jakamiseen「分かち合うことへ、共有することへ」[入]> < jakaminen 動名 < jakaa

● フィンランド語理解のための訳例

共同(体)的な生活様式は|言及する|より少なく|手で|触れられるような|有用品の|<次の>[よ
うな|時間の、空間の、技能の、そして金銭的資源の]|共有することへ。

◎ 意訳

<共有経済のシステムの中で>共同型生活様式と呼ばれるものは、時間や空間、あるいは技能や財源などのような、手で触れることが難しい有用品を共有することを意味している。

【18】「共同型生活様式」とは非物質的資源の交換のこと

Jakamistalous pitää sisällään tavaroiden kierrätyksen, hyödykkeiden yhteiskäytön palveluna sekä yhteisölliset elämäntavat, joilla tarkoitetaan aineettomien resurssien (aika, taidot, tila) vaihdantaa.

■ 語句・文法

pitää sisällään「含む」(sisällään[接]+ 単 3 所接 < sisä-)／joilla「それ(ら)により」[複接]< joka (ここでは yhteisölliset elämän-tavat という語句をさしています)／vaihdantaa「交換を」[分]< vaihdanta < vaihtaa

● フィンランド語理解のための訳例

共有経済は保つ|自らの内部に|品物のリサイクルを、|[有用品の共同利用を|サービスとして]|
そして共同(体)的な生活様式を、|それ(ら)により意味される|非物質的な資源の(時間、技能、空間)交換を。

◎ 意訳

共有経済には品物のリサイクル、有用品のサービスとしての共同利用、そして共同型生活様式が含まれるが、これらのうち最後のものは非物質的なもの(時間、技能、空間)の交換を意味している。

★ 補足

共有経済の三つ目のシステムとして yhteisölliset elämän-tavat というフィンランド語が登場してきましたが、これは英語の collaborative lifestyles の訳語だと思います。【4】の後の「★補足」でも

collaborative という英語については話題にしました。この collaborative lifestyles を日本語訳書では「協働型ライフスタイル」という日本語にしており、その通りだと思います。ただ、この資料では collaborative consumption を「共同消費」と訳すのと合わせ、「共同型生活様式」という日本語にしておこうと思います。

【17】で引用した資料では、「共同型生活様式」というシステムの代表として、【3】のテキストの中に出てきた「エアビーアンドビー」などが挙げられています。またフィンランドでの例としては、たとえば Stadin aikapankki「ヘルシンキ時間銀行」という、「お金」ではなく「時間」を交換単位としてサービスのやり取りを行うシステムが挙げられています。この Aikapankki「時間銀行」の取り組みは日本でも行われ始めているようです。これについては、資料IV-7で Solidaarisuustalous「連帯経済」を扱う中で少し詳しく見ていくことにします。

【19】共有経済は明らかに環境に肯定的影響を与える

Keskimääräinen tavarantuotantoprosessi tuhlaa resursseja. Puoli vuotta tuotteen myynnin jälkeen vain murto-osa sen valmistamiseen ja jakeluun kuluneista luonnonvaroista on yhä hyötykäytössä. Suurin osa tuotantoprosessiin käytetystä materiasta on siis silloin jo jätettä¹⁹. On epärealistista ajatella, että tällainen tehottomuus ja valtavat määrät jätettä voisivat edistää kestävää tulevaisuutta. Jos yksityisomistuksessa olevien ja vähällä käytöllä olevien tuotteiden sijaan käytettäisiin jakamistalouspalveluja, siitä voisi olla selkeitä ympäristöhyötyjä²⁰.

◇原注(文中で言及されている参考文献など)

19. Leonard, Annie (2010): The Story Of Stuff, Reference and Annotated Script. Free Press, katsottu 7.12.2012, http://dev.storyofstuff.org/wp-content/uploads/2011/10/annie_leonard_footnoted_script.pdf; Kotakorpi, Elli & Lähteenoja, Satu & Lettenmeier, Michael (2008): KotiMIPS. Suomen ympäristö 43, 2008, Ympäristöministeriö (Finnish Ministry of the Environment).
20. Botsman & Rogers 2010.

20. Botsman & Rogers については【13】の「◇原注(文中で言及されている参考文献など)」を見てください。

■語句・文法

keski-määräinen「平均的な」< -määrä / tavarantuotantoprosessi「商品生産の過程、商品生産プロセス」 / tuhlaata「無駄にする、浪費する」 / puoli vuotta tuotteen myynnin jälkeen「商品の販売後6カ月で、商品販売から6か月後に」 / murto-osa「ほんの一部、断片」 / sen valmistamiseen ja jakeluun kuluneista luonnonvaroista「その製造と流通に費やされた天然資源のうち」 (valmistamiseen [入] < valmistaminen 動名 < valmistaa, jakeluun [入] < jakelu「分配、流通」 < jaella < jakaa, kuluneista「費やされたような」 [複出] < kulunut 能過分 < kulua, luonnonvaroista [「天然資源のうち」 [複出] < -vara) / hyötykäytössä「有効利用されて」 [内] < -käyttö /

suurin osa「大部分」(suurin 最 < suuri) / tuotanto-prosessiin käytetystä materiasta「生産過程へ使用されるもののうち」(käytetystä [出] < käytetty 受過分 < käyttää) / jätettä「廃棄物、ごみ」[分] < jäte < jättää / epä-realistista「非現実的な」[分] < -realistinen / tehottomuus「非効率性」 < tehoton < teho / valtavat määrät jätettä「膨大な量の廃棄物」(valtavat määrät [複主] < valtava määrä) / yksityis-omistuksessa olevien「個人所有の中にあるような、個人所有の」(omistuksessa [内] < -omistus < omistaa, olevien [複属] < oleva 能現分 < olla) / vähällä käytöllä olevien「少ししか使われていないような」(vähällä käytöllä [接] < vähä käyttö) / tuotteiden sijaan「製品の代わりに」(tuotteiden [複属] < tuote < tuottaa) / käytettäisiin「使われるだろう」[条] 受現 < käyttää / selkeitä「明らかな」[複分] < selkeä / ympäristö-hyötyjä「環境にとっての利益」[複分] < -hyöty

●フィンランド語理解のための訳例

平均的な製品製造過程は|浪費する|資源を。製品の販売から6か月後に|[ただほんの一部|その製造と流通に費やされた天然資源のうち]|まだ有効利用されている。[大部分|製造過程へ使用されたもののうち]|つまり、そのとき|すでに廃棄物である。非現実的である|考えることは、|<次の> [ことを|このような非効率性|そして膨大な量の廃棄物|促進できるだろう|持続可能な未来を]。もし|個人所有されているような|そして|少ししか使用されていないような|製品の代わりに|使われるだろう|共有経済のサービスを、|それからはあるかもしれない|明らかな|環境にとっての利益。

◎意訳

平均的な商品製造過程というものは資源を浪費している。それらの製造と流通に費やされた天然資源のうちで、製品の販売から6カ月たっても有効利用されているのはほんの一部に過ぎない。つまり、製造過程で使用される材料の大半は、そのときにはすでに廃棄物となっているのである。このような非効率性や膨大な量の廃棄物が持続可能な未来につながると考えることは非現実的である。もし個人により所有され、あまり使用されていないような製品に代わって共有経済のサービスが活用されるのであれば、それは環境にとって明らかな利益となりえるだろう。

【20】共有経済はエネルギー利用や廃棄物を減らす

Kun resurssit jaetaan, ympäristöhyödyt ovat ilmeisiä ja potentiaalisesti erittäin suuria. Ydinajatus on melko yksinkertainen: jakaminen vähentää energiankäyttöä ja jätteitä²⁴. Jakamistalous saattaa tarjota parhaan tavan ihmisille täyttää tarpeensa ilman velkaantumista ja ympäristön tuhoamista²⁵.

◇原注(文中で言及されている参考文献など)

24. Merchant 2012.

Merchant, Brian (2012): Where's that Sharing Economy We've Been Hearing So Much About? Motherboard online magazine, katsottu 19.12.2012; <http://motherboard.vice.com/blog/wheres-that-sharing-economy-weve-been-hearing-so-much-about>.

25. Hirsch, Elaine (2011): How Collaborative Consumption Can Curb Overconsumption. 2nd Green

■ 語句・文法

jaetaan 「分けられる、共有される」受現 < jakaa / ilmeisiä 「明らかな」[複分] < ilmeinen / potentiaalisesti 「潜在的に」[副] < potentiaalinen / ydin-ajatus 「核となる考え、中心となる考え」 / yksin-kertainen 「単純な」 / parhaan tavan 「最善の方法を」[属対] < paras tapa (paras 最 < hyvä) / tarpeensa 「自らの必要性を」[複主対] + 複 3 所接 < tarve / velkaantumista 「負債を負うこと、借金をすること」[分] < velkaantuminen 動名 < velkaantua < velka / tuhoamista 「破壊すること」[分] < tuhoaminen 動名 < tuhota

● フィンランド語理解のための訳例

資源を分かち合われるときに、|環境にとっての利益は明らかである|そして潜在的に|非常に大きい。核となる考え方は|かなり単純だ: |分かち合うことは減らす|エネルギー利用を|そして廃棄物を。共有経済は提供するかもしれない|最善の方法を|人々へ|満たす|自らの必要性を|〈次のこと〉なしに|負債を負うこと|そして環境を破壊すること。

◎ 意訳

資源を共有すれば、環境への恩恵は明らかであり、それは潜在的に非常に大きなものでもある。ここで中核となる考え方はごく単純なものである: 共有することはエネルギー利用や廃棄物を減らすということである。共有経済は負債を負うもことなく、また環境を破壊することもなく自らの必要性を満たすための最善の方法を人間に提供してくれるのかもしれない。

【21】何でもかんでも買うような必要はないはずだ

Jakamistalous ei tarkoita myöskään utopistista ideologiaa maailmasta, jossa rahaa ei tarvita. Raha on kätevä vaihdon väline, ja sitä tarvitaan myös jatkossa. Kaikkea ei kuitenkaan tarvitse ostaa uutena, ja jos naapurillasi on pora jota hän käyttää keskimäärin 10 minuuttia vuodessa, on kaikkien kannalta järkevää, että lainaat tarvittaessa hänen poraansa uuden ostamisen sijaan.

■ 語句・文法

utopistista 「ユートピア的な」[分] < utopistinen / ei tarvita 「必要とされない」受現否 < tarvita / jatkossa 「今後は」[内] < jatko < jatkaa / uutena 「新しいものとして、新品で」[様] < uusi / naapurillasi 「あなたの隣人に」[接] + 単 2 所接 < naapuri / pora 「ドリル」 / keski-määrin 「平均して」[複具] < -määrä / kaikkien kannalta 「すべての人の観点からすると」(kannalta [奪] < kanta) / järkevä 「理性的な、理にかなった、合理的な」 / tarvittaessa 「必要とするときに」受 e 不 [内] < tarvita [時構] / poraansa 「ドリルを」[分] + 単 3 所接 < pora / uuden ostamisen sijaan 「新しいものを買う代わりに」(ostamisen [属] < ostaminen 動名 < ostaa)

●フィンランド語理解のための訳例

共有経済は意味しない|また|ユートピア的なイデオロギーを|世界について、|そこでは|お金は必要とされない。お金は便利な|交換の道具である、|そしてそれを|必要とされる|また|今後は。すべてを|しかしながら|必要ではない|買う|新品で、|そして、[もし|あなたの隣人に|ドリルがある|それを|その人は使う|平均して 10 分間|年に]、|すべての人の観点からすると|合理的だ、|〈次の〉[ことが|あなたは借りる|必要なときに|その人のドリルを|新しいものを買うことの|代わりに。

◎意訳

共有経済はまた、お金が必要とされないような世界に関するユートピア的なイデオロギーを意味するわけでもない。お金は交換のための便利な道具であり、それは今後も必要とされるだろう。しかしすべてを新品で買うような必要もなく、あなたの隣人が平均して一年に 10 分間しか使わないようなドリルをもっているのであれば、あなたがドリルを必要とするときには新しいものを買うのではなく隣人のドリルを借りるとするのが理にかなったことだろう。

【22】自家用車は 90 パーセントの時間、使われていない

On arvioitu, että yksityishenkilöiden autot ovat noin 90 prosenttia ajasta käyttämättä²⁹. Jos autojen yhteiskäyttö yleistyisi ja niiden käyttöastetta pystyttäisiin nostamaan alle kymmenestä edes noin kahteenkymmeneen prosenttiin, voitaisiin periaatteessa kaikki nykyiset automatkat tehdä puolta pienemmällä automäärällä.

◇原注(文中で言及されている参考文献など)

29. Pay-As-You-Live 2012.

Pay-As-You-Live – The business of Sharing in the UK (2012). Zipcar & Future Foundation, katsottu 17.12.2012, http://issuu.com/zipcaruk/docs/zipcar_pay_as_you_live_report/1.

■語句・文法

on arvioitu「推定されている」受完 < arvioida / yksityis-henkilöiden「私人の」[複属] < -henkilö / 90 prosenttia ajasta「時間のうち 90 パーセント、90 パーセントの時間」(ajasta [出] < aika) / käyttämättä「使わずに」MA 不[欠] < käyttää / yhteis-käyttö「共同利用」/ yleistyisi「一般的になるだろう、普及するだろう」[条] 単 3 現 < yleistyä < yleinen / käyttö-astetta「利用度を」[分] < -aste / pystyttäisiin「できるだろう」[条] 受現 < pystyä (+ [入] ~MA 不[入]) / nostamaan「上げる」MA 不[入] < nostaa / alle kymmenestä「10 未満から」(kymmenestä [出] < kymmenen) / kahteen-kymmeneen prosenttiin「20 パーセントへ」[入] < kaksi-kymmentä prosenttia / voitaisiin「できるだろう」[条] 受現 < voida / auto-matkat「自動車での移動を」[複主対] < -matka / puolta pienemmällä auto-määrällä「半分の自動車台数で(「半分だけ小さな自動車量で」)」(puolta [分] < puoli, pienemmällä [接] < pienempi 比 < pieni)

●フィンランド語理解のための訳例

推定されている、|〈次の〉[ことが|私人の自動車は|約 90 パーセント|時間のうち|使わないままである]。もし自動車の共同利用が|一般的になれば|そして、それらの利用度を|できれば|上げる|10〈パーセント〉未満から|せめて|約 20 パーセントへ、|できるだろう|原則として|すべての|現在の|自動車による移動を|行う|半分の自動車台数で。

◎意訳

自家用車は約 90 パーセントの時間、使用されていないと推定されている。もし自動車の共同利用が一般的になり、その利用度を 10 パーセント未満からせめて 20 パーセントまで向上させることができれば、現在の自動車による移動は原則として半分の台数の自動車で行うことができるだろう。

【23】自動車を購入する意味は薄れていくだろう

Auton ostaminen itselle muuttuisi nykyistä hyödyttömämmäksi ja siksi tarvittavien autojen kokonaismäärä voisi olla huomattavasti nykyistä pienempi.⁵¹

◇原注(文中で言及されている参考文献など)

51. Ks. Lahti, Vesa-Matti (2012): Yhteiskäyttöautoilu on luonnonvaroja säästävä jakamistaloutta. Uusiouutiset 8/2012, p. 29; ks. Lahti & Selosmaa 2013; ks. Brynjolfsson, Erik & McAfee, Andrew (2011): Race Against The Machine: How the Digital Revolution is Accelerating Innovation, Driving Productivity, and Irreversibly Transforming Employment and the Economy. Digital Frontier Press. Kindle Edition.

■語句・文法

muuttuisi「変わるだろう」[条]単 3 現 < muuttua / nykyistä hyödyttömämmäksi「現在よりも利益のないものへ」(hyödyttömämmäksi [変] < hyödyttömämpi 比 < hyödytön < hyöty) / tarvittavien「必要とされるような」[複属] < tarvittava 受現分 < tarvita / kokonaismäärä「全体量、総量」 / voisi「ありうるだろう、かもしれないだろう」[条]単 3 現 < voida / huomattavasti「著しく」[副] < huomattava 受現分 < huomata

●フィンランド語理解のための訳例

自動車の|買うことは|自分自身へ|変わるだろう|現在よりも利益のないものへ|そして|だから|必要とされるような|自動車の|総台数は|ありうるだろう|著しく|現在よりも|より小さい。

◎意訳

自分ために自動車を購入するということは、現在に比べれば意味のないものへと変化するだろう。したがって、必要とされる自動車の総台数は現在よりも著しく少ないものとなるかもしれない。

【24】共有経済は二酸化炭素排出を減少させるだろう

Jakamistalous voi vähentää tarvetta valmistaa niin monia uusia autoja, mutta silti antaa meille tarvitsemamme kuljetuskapasiteetin. Jakamistalous voi vähentää myös tarvetta rakentaa lisää hotelleja, mutta silti antaa meille tarvittavat majoituspalvelut. Tällaiset muutokset vähentäisivät luonnonvarojen käyttöämme ja pienentäisivät hiilijalanjälkeämme.²¹

◇原注(文中で言及されている参考文献など)

21. Brodwin, David (2012): The Rise of the Collaborative Consumption Economy. US News, online version, August 9, 2012, katsottu 28.12.2012, <http://www.usnews.com/opinion/blogs/economic-intelligence/2012/08/08/how-collaborative-consumption-reinvigorates-our-economy>.

■ 語句・文法

tarvitsemamme「我々が必要とするような」[属対]+ 複 1 所接 < tarvitsema 動分 < tarvita / kuljetus-kapasiteetin「輸送能力を」[属対] < -kapasiteetti / tarvittavat「必要とされるような」[複主対] < tarvittava 受現分 < tarvita / majoitus-palvelut「宿泊サービスを」[複主対] < -palvelu / vähentäisivät「減らすだろう」[条] 複 3 現 < vähentää / käyttöämme「我々の利用を」[分]+ 複 1 所接 < käyttö / pienentäisivät「小さくするだろう」[条] 複 3 現 < pienentää / hiili-jalan-jälkeämme「我々の炭素の足跡を、我々の二酸化炭素フットプリントを、我々のカーボンフットプリントを」[分]+ 複 1 所接 < jälki(「フットプリント、足跡」については『フィンランド語の世界を読む』27 課を見てください。「フットプリント」とは、簡単にいえば人間の活動が引き起こす否定的な影響のことです)

● フィンランド語理解のための訳例

共有経済は|減らしうる|必要性を|作る|それほど多くの|新しい|自動車を、|しかし、それでも|与える|我々へ|我々が必要とするような|移動能力を。共有経済は|減らしうる|また必要性を|建てる|さらに|ホテルを、|しかし、それでも|与える|我々へ|必要とされるような|宿泊サービスを。このような変化は|減らすだろう|天然資源の|我々の利用を|そして小さくするだろう|我々の炭素の足跡(カーボンフットプリント)を。

◎ 意訳

共有経済は新しい自動車を多数生産するような必要性を低減させるだろうが、それでも我々が必要とする移動能力は保証してくれる。共有経済はまた、さらに多くのホテルを建設するような必要性を低減させてくれるだろうが、それでも必要とされる宿泊サービスは保証してくれる。このような変化は我々の天然資源利用を減らし、したがって我々の炭素の足跡(カーボンフットプリント)をより小さいものにしてくれるだろう。

【25】共有経済は古い慣習と新しい技術が融合したものだ

Jakamistalous on yhdistelmä ikiaikaisia yhteisöllisiä käytäntöjä ja nykyteknologian mahdollistamia moderneja yhteydenpidon muotoja.

■ 語句・文法

yhdistelmä「組み合わせ」< yhdistellä < yhdistää < yksi (yhdistelmä といった語は分格をしたがえて「～の組み合わせ」という意味を作ります) / iki-aikaisia「とても古い、古くからあるような」[複分]< -aikainen / yhteisöllisiä käytäntöjä「共同体的な慣習」[複分]< yhteisöllinen käytäntö / nykyteknologia「現代の科学技術」 / mahdollistamia「可能にしてくれるような」[複分]< mahdollistama 動分 < mahdollistaa / moderneja「現代の」[複分]< moderni / yhteydenpidon「やり取りの、連絡の、つながりの、コミュニケーションの」(yhteyden [属]< yhteys、pidon [属対]< pito < pitää) / muotoja「形、形態」[複分]< muoto

● フィンランド語理解のための訳例

共有経済は組み合わせである | とても古い共同体的な慣習の | そして | 現代の科学技術の | 可能にしてくれるような | 現代の | コミュニケーションの | 形の。

◎ 意訳

共有経済とは、古くからある共同体的な慣習と、現在の科学技術が可能にしてくれた現代的なコミュニケーションの形態とが組み合わせられたものである。

★ 補足

すでに【2】【3】【16】などで uusi jakamistalous「新しい共有経済」という表現が出てきていましたが、これは逆に「古い共有経済」というものがあつたということを暗に示しているのだらうと思います。つまり、かつては「分かち合う」「共有する」といったことは日常的に行われており、人々の日々の生活、つまり経済活動の重要な一部となっていた、あるいは中心的な役割を担っていた時代の方が人類の歴史においては長かったのでしょう（あるいは、現在でも「分かち合う」ことが経済活動の中心となっているような社会は存在しているはずです）。

【26】共有経済と社会的企業の間には共通点がある

Vaikka kaikki jakamistalouden yritykset eivät välttämättä ole yhteiskunnallisia yrityksiä, on tavoitteissa paljon yhteisiä: Niukkojen luonnonvarojen kulutusta vähennetään tavoilla, jotka lisäävät ihmisten välistä yhteistyötä ja luottamusta¹¹.

◇原注(文中で言及されている参考文献など)

11. Botsman & Rogers 2010, Lahti & Selosmaa 2013.

Botsman & Rogers については【13】の「◇原注(文中で言及されている参考文献など)」を見てください。

■ 語句・文法

tavoitteissa「目標の中に」[複内]< tavoite < tavoittaa/niukkojen「乏しい」[複属]< niukka/ vähennetään「減少させられるだろう」受現 < vähentää/ tavoilla「方法により」[複接]< tapa/ yhteistyötä「共同作業を、協力を」[分]< -työ

● フィンランド語理解のための訳例

〈次のよう〉[だけれども|すべての|共有経済の企業|ない|必ずしも|社会的企業]、|ある|目標の中には|たくさん|共通な点: 乏しい天然資源の|消費を|減少させられる|方法で、|それらは増やす|人間たちの|間の|協力を|そして信頼を。

◎ 意識

共有経済に携わるすべての企業が必ずしも社会的企業というわけではないが、両者の目標の間には多くの共通点がある。たとえば、人間どうしの協力や信頼というものを高めるような方法で希少な天然資源の消費を減らそうといった点である。

★ 補足

【2】の「★補足」でも触れたように、「社会的企業」「対等な人どうしによる生産」と「共有経済」は多くの価値観を共有しています。とくに環境問題や社会的格差などの問題にいかに対処するのかといった点は、これらの「新しい経済の形」がしばしば共有している問題意識なのだろうと思います。

【27】「電動ドリルを買いたいのではなく、壁に穴を開けたいのだ」

Laajemmin ottaen jakamistalous on yksi ilmentymä kehityksestä, jossa teollisuustuotantoon perustuvasta taloudesta siirrytään kohti palveluja ja sisältöä koskevaa taloutta. Markkinoinnin asiantuntijat ovat sanoneet saman asian pähkinänkuoressa seuraavasti: ihmiset eivät halua ostaa sähköporaa, he haluavat reiän seinään¹⁰.

◇原注(文中で言及されている参考文献など)

10. Ks. esim. Dodd, David (2012): Why Marketing Content Should Be More About Quarter-Inch Holes Than Quarter-Inch Drills. Business 2 Business online magazine, 17.4.2012, katsottu 28.12.2012, <http://www.business2community.com/content-marketing/why-marketing-content-should-be-more-about-quarter-inch-holes-than-quarter-inch-drills-0165309>.

■ 語句・文法

laajemmin ottaen「より広くとらえれば」(laajemmin [副] 比 < laaja, ottaen e 不 [具] < ottaa) / ilmentymä「現れ、顕現」< ilmentyä < ilmetä < ilmi / teollisuus-tuotantoon「工業生産へ」[入] < -tuotanto / perustuvasta「もとづくような」[出] < perustuva 能現分 < perustua / siirrytään「移る、移動する」受現 < siirtyä / kohti palvelua ja sisältöä koskevaa taloutta「サービスと中身(コンテンツ)にかかわるような経済へ向けて」(sisältö「中身、内容、コンテンツ」、koskevaa [分] < koskeva

能現分 < koskea) / markkinoinnin 「マーケティングの」 [属] < markkinointi < markkinoida / pähkinän-kuoressa 「簡潔に、一言でいえば、要点をいえば」 [内] < -kuori (pähkinän-kuori 「ナッツの殻」) / sähkö-poraa 「電気ドリルを」 [分] < -pora / reiän 「穴を」 [属対] < reikä

●フィンランド語理解のための訳例

より広くとらえれば | 共有経済は一つの現れである | 発展について、| その中では | 工業生産にもとづくような経済から | 移る | サービスと中身にかかわるような経済へ向けて。マーケティングの専門家たちは言っている | 同じことを | 簡潔に | 次のように: | 人々は買いたいのではない | 電気ドリルを、| 彼らはほしい | 穴を | 壁へ。

◎意訳

より広くとらえれば共有経済というものは、工業生産にもとづく経済からサービスや中身(コンテンツ)に関する経済へ向けて変化するような発展の一つの現れである。マーケティングの専門家たちは同じことを次のように簡潔に表現している: 人々は電動ドリルを買いたいわけではなく、ただ壁に穴を開けたいのだ。

【28】「買う」という古いモデルに代わるのが「共有経済」である

Jakamistalous avaa tietä kohti aineettomampaa hyvinvointia. Vanha omistamiseen perustuva malli tarkoittaa resurssien tehotonta käyttöä. Vanhan mallin mukaan toimiessamme ostamme ja omistamme paljon tavaroita, joita emme ehdi käyttää.

■語句・文法

kohti aineettomampaa hyvinvointia 「より非物質的な福祉・厚生へ向けて」 (aineettomampaa [分] < aineettomampi 比 < aineeton < aine) / omistamiseen perustuva 「購入することにもとづくような」 (ostamiseen [入] < ostaminen 動名 < ostaa) / tehotonta 「非効率的な」 [分] < tehoton < teho / toimiessamme 「我々が行動するときに」 e 不 [内] + 複 1 所接 < toimia [時構]

●フィンランド語理解のための訳例

共有経済は開く | 道を | より非物質的な福祉・厚生へ向けて。古い | 購入することにもとづくような | モデルは | 意味する | 資源の | 非効率的な | 利用を。古いモデルにしたがって | 我々が行動するときに | 我々は買う | そして我々は所有する | たくさん | 品物を、 | それらを | 我々は時間がない | 利用する。

◎意訳

共有経済とは、より非物質的な福祉・厚生というものへ向けての道を切り開くものだ。ものを買うということにもとづくような古いモデルが意味するのは資源の非効率的な利用である。そのような古いモデルにしたがって我々が行動するということは、我々が使う暇もないような多くのものを購入し所有するということである。

【29】枠組みとなる価値観や規範が大きく変化することで生まれるもの

Paradigman vaihdos pois yksityisomistuksesta kohti jakamista ja yhteisöllistä kulutusta vähentää uusien kulutustavaroiden kysyntää, mikä puolestaan tarkoittaa luonnonvarojen käytön vähenemistä⁴⁸. Jakamistalous voi myös lisätä kansalaisten ulottuvilla olevia kestävä arjen valintoja. Yhteiskäyttö ja vuokraus mahdollistavat mukavan elämän ilman että luonnonvarojen kulutus lisääntyy. Samalla saadaan aikaan uutta yhteisöllisyyttä.

◇原注(文中で言及されている参考文献など)

48. Prothero, Andrea & Dobshca, Susan & Freund, Jim & Kilbourne, William & Luchs, Michael & Ozanne, Luice & Thøgersen, John (2011): Sustainable Consumption: Opportunities for Consumer Research and Public Policy. Journal of Public Policy & Marketing; Spring 2011, Vol. 30, Issue 1, pp. 31-38.

■ 語句・文法

paradigma 「パラダイム、(理論的)枠組み」/vaihdos 「交代、変更、シフト」< vaihtaa / yksityisomistuksesta 「個人所有から、私的所有から」[出]< -omistus < omistaa / kohti jakamista ja yhteisöllistä kulutusta 「共有することと共同消費へ向けて」(jakamista [分]< jakaminen 動名 < jakaa, yhteisöllistä kulutusta [分]< yhteisöllinen kulutus) / kulutus-tavaroiden 「消費財の」[複属]< -tavara / kysyntää 「需要を」[分]< kysyntä < kysyä / mikä 「そのことは」(前の節の内容を受け関係代名詞) / puolestaan 「一方で」 / vähenemistä 「減少することを」[分]< väheneminen 動名 < vähetä / ulottuvilla olevia 「手の届くところにあるような」(ulottuvilla 「手の届くところに」[複接]< ulottuva 能現分 < ulottua, olevia [複分]< oleva 能現分 < olla) / kestävä arjen 「持続可能な日常の」[属]< kestävä arki / valintoja 「選択を、選択肢を」[複分]< valinta < valita / ilman että ~ 「～であることなしに」 / saadaan aikaan 「生み出される」受現 < saada aikaan / yhteisöllisyyttä 「共同体意識を」[分]< yhteisöllisyys < yhteisöllinen < yhteisö < yksi

● フィンランド語理解のための訳例

[理論的な枠組みの変化(パラダイムシフト)は|離れて|私的所有から|共有することと共同消費へ向けて]|減らす|新しい消費財の|需要を、|それは一方で|意味する|天然資源の利用の|減少することを。共有経済はできる|また|増やす|市民たちの|手の届くところにあるような|持続可能な日常の|選択を。共同利用と賃貸・賃借は|可能にする|快適な生活を|<次のような>[ことなしに|天然資源の消費が|増加する]。同時に|生み出される|新しい|共同体意識を。

◎ 意訳

私的所有というものから共有や共同消費へ向けて考え方の枠組みとなる価値観や規範が大きく変化することにより、新たな消費財に対する需要は低下するが、それは一方で天然資源の利用が減少することを意味することになる。共有経済はまた市民の手の届くところにあるような持続可能な日

常の選択肢を増やすことにもなるだろう。共同利用や賃貸・賃借は天然資源の利用を増加させることなく、快適な生活を可能なものにしてくれるだろう。そして同時に、新たな共同体意識といったものも生み出されることになるだろう。

★補足

「パラダイムシフト」という言葉も頻繁に使用されるようです。それまで支配的になっていた価値観や規範、あるいは理論的な枠組みが大きく変化することを意味します。ですから、「価値観や規範の劇的な変化」とでもいえば多くの人に理解されるのですが、そうなると研究者の存在意義が薄れてしまいますので「パラダイムシフト」という「かっこいい」言葉を使って一般の人間が立ち入れないようにがんばっています(?)。

【30】共有経済がもたらしうる脅威とは

Jakamistalous voi myös sisältää uhkia esimerkiksi työläisten oikeuksille ja veronkannolle, jos työmarkkinat jakamistalouden kasvun myötä muuttuisivat yhä enemmän osa-aikaisuuteen ja erillisten lyhytkestoisten tehtävien suorittamiseen perustuviksi. Tämä ei olisi yhteiskunnallisesti toivottava työmarkkinoiden päämalli, joten ehkä jakamistaloutta pitäisi työllistämisenäkökulmasta ajatella nykyisen kokopäiväisen palkkatyömallin rinnalla toimivan elämäntapajousten mahdollistajana ja eräänlaisena lisäturvaverkon tarjoajana.

■ 語句・文法

sisältää「含む」/uhkia「脅威を」[複分]< uhka/veron-kannolle「徴税へ」[向]< -kanto < kantaa /työ-markkinat「労働市場が」/muuttuisivat「変わるだろう」[条]複 3 現 < muuttua/osa-aikaisuuteen「パートタイム労働へ、非常勤労働へ」[入]< -aikaisuus < -aikainen < -aika/erillisten「個別の」[複属]< erillinen/lyhyt-kestoisten「短期間の」[複属]< -kestoinen < kesto < kestää/tehtävien「仕事の、作業の」[複属]< tehtävä 受現分 < tehdä/suorittamiseen「遂行することへ、行うことへ」[入]< suorittaminen 動名 < suorittaa/perustuviksi「もとづくようなものへ」[複変]< perustuva 能現分 < perustua/toivottava「望ましい」受現分 < toivoa/työ-markkinoiden「労働市場の」[複属]< -markkina/pää-malli「主要モデル」/joten「そのため、だから」/pitäisi「しなければならないだろう」[条]単 3 現 < pitää/työllistämisenäkö-kulmasta「雇用の観点から」[出]< -kulma (työllistämisen < työllistäminen 動名 < työllittää)/koko-päiväisen palkka-työ-mallin「丸一日の有給労働のモデルの、フルタイムの有給雇用モデルの」[属]< -malli/rinnalla「並んで」/toimivan「機能するような」[属]< toimiva 能現分 < toimia/elämän-tapa-jousten「生活様式の柔軟さの」[複属]< jousto < joutaa/mahdollistajana「可能にするものとして」[様]< mahdollistaja < mahdollistaa/erään-laisena「ある種の」[様]< -lainen/lisä-turva-verkon「追加の安全網の、追加のセーフティネットの」[属]< -verkko/tarjoajana「提供するものとして」[様]< tarjoaja < tarjota

●フィンランド語理解のための訳例

共有経済はありうる|また|含む|脅威を|たとえば|労働者たちの権利へ|そして徴税へ、|もし労働市場が|共有経済の成長につれて|変化するだろう|さらに多く|[非常勤労働へ|そして|個別の|短期間の|仕事の|遂行することへ|もとづくようなものへ]。これは|ないだろう|社会的に望ましい|労働市場の主要モデル、|そのため|おそらく|共有経済を|しなければならないだろう|雇用の観点から|考える|現在の|フルタイムの有給労働モデルの|並んで|機能するような|生活様式の柔軟さの|可能にするものとして|そして|ある種の|追加のセーフティネットの|提供するものとして。

◎意訳

共有経済の成長とともに労働市場がますます非正規労働や、個別の短期的作業の遂行にもとづくようなものへと変化するのであれば、共有経済は労働者の権利や税の徴収に対する脅威をも含んでいることになる。これは社会的に望ましい労働市場の主要モデルではないだろう。そのため現在のフルタイム有給労働モデルと並んで、共有経済はより柔軟な生活様式を可能にしてくれるようなものとして、あるいは、ある種の追加の安全網(セーフティネット)を提供してくれるものとして機能するものだというように、雇用の観点からはおそらく考えるべきだろう。

★補足

社会が変化するときにはさまざまな問題が生じるのは当然です。そして変化を要求する人々は、変化にともなって生じる問題をどのように軽減するのも考える義務があるといえるでしょう。そのような問題については、資料IV-8で扱う予定にしている「脱成長」という考え方を勉強する中で触れることができればと思っています。

【31】Sitra が「賢い日常—企業コンテスト」を開催

Sitra järjesti Fiksu arki -yrittyskilpailun, jonka osallistujien keskuudesta se seuloi esiin suomalaisten pienyritysten parhaat kestäväen arjen ratkaisut. On merkittävää, että kymmenen palkitun yrityksen joukossa on kolme jakamistalousyritystä.

■語句・文法

Sitra (= Suomen itsenäisyyden juhlarahasto「フィンランドの独立記念基金」) はフィンランド独立 50周年を記念して 1967 年に設立された議会の監督下にある基金だそうですが、フィンランドの未来について考えることをおもな役割としているようです。/järjestää「開催する」/Fiksu arki -yrittyskilpailu「賢い日常—企業コンテスト」(fiksu「賢い」)/osallistujien keskuudesta「参加者たちの間から」(osallistujien[複属]< osallistuja < osallistua)/seuloa「ふるいにかける」< seula (seuloa esiin「(ふるいにかけて) 選ぶ」)/pien-yritysten「中小企業の」[複属]< yritys/parhaat「最高の、最善の」[複主対]< paras 最 < hyvä/palkitun「表彰されたような、受賞したような」[属]< palkittu 受過分 < palkita

●フィンランド語理解のための訳例

Sitra は開催した|「賢い日常—企業コンテスト」を、|その参加者たちの間から|それはふるいにか

けた|前へ|フィンランドの中小企業の|最高の|持続可能な日常の|解決を。注目すべきである、|
<次の>ことに|十の|受賞した企業の|集団の中に|いる|三つの|共有経済企業が。

◎意訳

Sitra は「賢い日常—企業コンテスト」を開催したが、その参加者の中から持続可能な日常にとって最高の解決策をもたらすフィンランドの中小企業を選出した。受賞した企業の十社の中に共有経済を事業とする企業が三社いることは注目に値する。

★補足

このコンテストが開催されたのは 2018 年のことですが、受賞した三つの企業とは次の通りです。

1. Goodrnt-sovellus, joka mahdollistaa joustavan tavaroiden vuokraamisen
「品物の柔軟なレンタルを可能にする Goodrnt アプリ」
2. Liiteri.net, tavaroiden yhteiskäyttöpalvelu
「品物の共同利用サービス Liiteri.net」
3. Shareit Blox Car, autojen vertaisvuokrauspalvelu
「自動車の対等な人どうしのレンタルサービス Shareit Blox Car」
<<https://www.jakamistalous.fi/post/sitra-palkitsi-kolme-jakamistalousyrityst%C3%A4>>

なお、Sitra という組織については、次の IV-5 の資料の冒頭で少し詳しく見ていきます。

【32】共有経済は持続可能な選択を支援する

Sitran Fiksu arki -yrittäjäkilpailun voittajat auttavat kuluttajia tekemään kestävämpiä valintoja arjessa esimerkiksi tavaroiden yhteiskäyttöä, vuokraamista ja kimpakyytejä helpottamalla, hävikkiruokaa hyödyntämällä ja tarjoamalla tietoa tuotteiden alkuperästä.

■語句・文法

auttavat kuluttajia tekemään「消費者たちがするのを助ける」/kestävämpiä「より持続可能な」
[複分]< kestävämpi 比 < kestävä 能現分 < kestää/helpottamalla「容易にすることによって」
MA 不[接]< helpottaa < helppo/hävikki-ruokaa「食品廃棄物を」[分]< -ruoka (hävikki「損失、ロス」、なお「食品ロス、フードロス」はフィンランド語では ruoka-hävikki というようです) /
hyödyntämällä「活用することによって」MA 不[接]< hyödyntää < hyöty/tarjoamalla「提供することによって」MA 不[接]< tarjota/alkuperästä「起源について、産出国について」[出]< -perä

●フィンランド語理解のための訳例

Sitra の「賢い日常—企業コンテスト」の|勝者たちは|助ける|消費者たちを|するのを|より持続可能な|選択を|日常において|たとえば|[品物の共同利用を、|賃貸・賃借することを|そして相乗りを|容易にすることによって]、|[食品廃棄物を|活用することによって]|そして[提供することによって]|情報を|製品の出どころについて]。

◎意識

Sitra の「賢い日常—企業コンテスト」における受賞企業は、たとえば品物の共同利用、レンタル、そして自動車の相乗りなどを容易なものにし、食品廃棄物を活用し、あるいは製品の産出国についての情報を提供することにより、消費者たちが日常生活においてより持続可能な選択をするよう支援する。

★補足

何度か触れたように、テーマⅣであつかっている「新しい経済の形」はそれぞれ他を排除するものではなく、むしろ持続可能な世界をめざすための複数の道筋だと考えられます。そのため、それらは多くの価値観を共有している気がします。

さて、ここまで「対等な人どうしによる生産（ピア生産）」「社会的企業」「共有経済」を扱ってきました。そして最後に Sitra という基金の話が出てきたのですが、少し調べてみると Sitra が donitsitalous「ドーナツ経済」に関する取り組みを進めていることを知りました。「ドーナツ経済」については、私自身も数年前に大学や大学院の授業の中で取り上げたのですが、フィンランド語で読むことのできる記事など見つけたので、予定を変更して次の資料では、まず Sitra について少し詳しく見た後で「ドーナツ経済」について勉強したいと思います。その後で、予定していた「協同組合」「連帯経済」などへ進んでいこうと考えています。

◆出典

【1】【4】【5】【11】【21】:

”Etusivu”. JAKAMISTALOUS.FI. <<https://www.jakamistalous.fi/>>

【2】【3】【6】【7】【8】【9】【10】【12】【13】【14】【15】【16】【17】【19】【20】【22】【23】
【24】【25】【27】【28】【29】【30】:

Lahti, Vesa-Matti. 2015. ”Jakamistalous tienä kohti ekologista kestävyyttä”. Jakonen, Mikko ja Tiina Silvasti (toim.). *Talouden uudet muodot*. Into. 162-188.

【2】【3】164 ページ、【6】【7】【8】【9】【10】【12】163 ページ、【13】170 ページ
【14】164 ページ、【15】164-165 ページ、【16】【17】165 ページ
【19】170 ページ、【20】171 ページ、【22】172 ページ、【23】182 ページ
【24】170 ページ、【25】162 ページ、【27】167 ページ、【28】177 ページ
【29】180-181 ページ、【30】181 ページ

【18】:

”Kiertotaloustermistöä”. Turku AMK. <<https://kiertotalous2.turkuamk.fi/kiertotaloustermist/>>

【26】:

Tykkyläinen, Saila. 2015. ”Yhteiskunnallinen yritystoiminta”. Jakonen, Mikko ja Tiina Silvasti (toim.). *Talouden uudet muodot*. Into. 144-161.

【26】149 ページ

【31】【32】:

”Sitra palkitsi kolme jakamistalousyritystä”. JAKAMISTALOUS.FI.
<<https://www.jakamistalous.fi/post/sitra-palkitsi-kolme-jakamistalousyrityst%C3%A4>>